

## 杉本順一\* シダ類雑記(一)

J. SUGIMOTO : Notes on Some Japanese Ferns (1)

- (1) **Dryopteris erythrosora** (EAT.) O. KUNTZE, Rev. Gen. Pl. II : 812 (1891).  
*Aspidium erythrosorum* EAT. in PERRY, Narr. Exp. China II : 330 (1856).  
*Nephrodium erythrosorum* (EAT.) HOOK., Sp. Fil. IV : 120 (1862).  
*N. filixmas* (L.) RICH. var. *erythrosorum* (EAT.) CHRIST ex MATSUM. Ind. I : 319 (1904).  
*Aspidium cystolepidotum* MIQ., Ann. Lugd. Batav. III : 177 (1867).  
*Dryopteris cystolepidota* (MIQ.) C. CHR., Ind. Fil. 260 (1905).  
*D. erythrosora* var. *ambigens* NAKAI in Bot. Mag. Tok. 39 : 119 (1925).  
*D. ambigens* (NAKAI) KOIDZ. Fl. Symb. Or. As. 39 (1930).  
**Nom. Jap.** Benishida.  
**Distr.** Honshû, Shikoku, Kiushû, Corea et China.  
var. *dilatata* (KOIDZ.) SUGIMOTO, comb. nov.  
*Dryopteris nipponensis* KOIDZ. in Acta Phytotax. Geobot. I : 28 (1932) ; TAGAWA, Col. III. Pter. 211, t. 37, f. 211 (1959) ; KURATA et NAMEGATA in NAMEGATA, Coll & Cult. Fern. 301 (1961).  
*D. nipponensis* KOIDZ. var. *dilatata* KOIDZ., l. c. 29 (1932) ; KURATA et NAMEGATA, l. c. 301 (1961).  
*D. nipponensis* var. *ambigens* KOIDZ., l. c. 29 (1932).  
*D. Taquetii* CHRIST ex LÉVEILLÉ, in Bull. Acad. Int. Geogr. Bot. 9 (1910).  
‘*D. cystolepidota* C. CHR.’ sensu MAK. et NEM. Fl. Jap. 1611 (1914) ; H. ITO, in Bot. Mag. Tok. 50 : 39 (1936) ; et Pol.-Dryop. 42 (1939).  
*D. erythrosora* O. KUNTZE var. *cystolepidota* (C. CHR.) MAK., in Bot. Mag. Tok. 23 : 144 (1938). excl. basion. ; OHWI, Fl. Jap. Pterid. 87 (1957).  
*D. cystolepidota* var. *dilatata* (KOIDZ.) H. ITO, l. c. 39 (1936).  
*D. cystolepidota* f. *dilatata* (KOIDZ.) H. ITO, l. c. 44 (1939).  
*D. cystolepidota* var. *ambigens* (KOIDZ.) H. ITO, l. c. 39 (1936) ; et. Pol.-Dryop. 44 (1939).  
**Nom. Jap.** Tôgokushida.  
**Distr.** Hoshû, Shikoku et Kiushû.
- (2) **Lunathyrium Okuboanum** (MAKINO) SUGIMOTO, comb. nov.  
*Aspidium Okuboanum* MAKINO in Bot. Mag. Tok., 6 : 47 (1892). nom.

\* 静岡市八幡本町 5 の 9

*Athyrium Okuboanum* MAKINO in Bot. Mag. Tok., 13 : 16 (1899) ; MATSUM. Ind. Pl. Jap. I. 295 (1904) ; TAGAWA, Col. III. Jap. Pter. 184, t. 53, f. 293 (1959) ; SHIMURA, in Coll. & Breed. 22 (no. 6), 165 (1960).

*Dryopteris Okuboana* (MAKINO) KOIDZ. in Bot. Mag. Tok., 38 : 112 (1924).

*Athyrium viridifrons* MAK. f. *Okuboanum* (MAK.) MAK. in Journ. Jap. Bot. VI 10 (1929) ; TAGAWA, in Act. Phytotax. Geob., 2 : 219 (1933).

*Ath. unifurcatum* C. CHR. var. *Okuboanum* (MAK.) H. ITO, in NAKAI Ic. Pl. As. Or. III, P. 259, t. XCII (1940) ; H. ITO, in Journ. Jap. Bot., 18 : 199 (1942). excl. syn. ; HONDA, Nom. Pl. Jap. ed. 6 (1957).

'*Ath. Henryi* (BAK.) DIELS. sensu H. ITO in Journ. Jap. Bot. 18 : 199 (1942) ; OHWI, Fl. Jap. Pter. 111 (1957).

*Dryoathyrium viridifrons* CHING var. *Okuboanum* (MAK.) CHING ex FU, Icones of the Essential Plants in China, Pteridophyta, p. 125, f. 164 (1957).

*Lunathyrium unifurcatum* KURATA var. *Okuboanum* (MAK.) KURATA in NAME-GATA, Coll. & Cult. Fern. 308 et 343 (1961).

**Nom. Jap.** Ôhimewarabi.

**Distr.** Honshû, Shikoku et China.

(3) **Diplazium Wichuræ** (METT.) DIELS in Engl. et Prantl, Nat. Pfl.-fam. 1-4, 226 (1899).

form. **Shimuræ** SUGIMOTO, form. nov.

Stipes 20 cm longus. Frons anguste lanceolata 34 cm longa 6 cm lata, pinnata, apice lineari-acuminata, basi cuneata. Pinnis utroque latere circ. 18, pinnis inferioribus flabellatis v. brevissimis ovatis 7~10 mm longis petiolulatis, pinnis mediis anguste oblongis basi breve (3~4 mm) petiolulatis truncatis subaequilateribus, latiore obscure auriculatis, apice rotundatis, margine incisobatis, lobis irregulariter serrulatis.

**Nom. Jap.** Chabo-nokogirishida (SHIMURA, nom. nov.)

**Hab.** Honshû ; Prov. Suruga, Aoizawa in Shizuoka, leg Y. SHIMURA et M. IDA, Oct. 1956. Typus in Herb. Shizuoka Univ.

### 摘 要

(1) **トウゴクシダ** 多くの学者はベニシダとは別種として扱っている。しかし牧野氏 1938, 大井氏 1957 はベニシダの変種と見なしている。筆者は野外と標本とによつて詳しく調べて見て、トウゴクシダはベニシダとは決して別種でなく、その変種となるものであると結論するに至つた。トウゴクシダはベニシダと比べて、葉面が広いこと、先が急に鋭尖すること、小羽片の幅が広くて深く羽裂すること、若葉と包膜は赤味を帯びることと区別された。しかしベニシダの個体には葉の先が急に鋭尖するもの、小羽片が多少切れるもの、若葉と包膜が赤味を帯びないもの等が混じている。両者とも葉質・葉脈・鱗片・包膜

・孢子などは何らの違いもなく全く同じ性質であつて、しかも分布も生態もよく似ている。ときには同一株上にベニシダ形の葉とトウゴクシダ形の葉とを共有する株も見たことがある。実際に野外はもちろん、標本に当つて見ても両者の中間型を呈して、その判定に苦しむことがしばしばである。よつてトウゴクシダをベニシダの変種とすることに異存はないものと信じる。

トウゴクシダの学名は多くの学者が *Dryopteris cystolepidota* C. CHR. を用いていた。ところがこの学名の元を成す *Aspidium cystolepidotum* MIQUEL の原標本は小泉博士が検してベニシダの一形であるという。田川博士 (1959) もこの説を裏書きしている<sup>1)</sup>。

次に *Dryopteris erythrosora* var. *ambigens* NAKAI = *D. ambigens* KOIDZ. ヒロハベニシダ (小泉 1930, non 牧野) は中井博士はベニシダの変種とし、小泉博士はトウゴクシダでなくて、ベニシダ近似の種とされた。田川博士 (1959) はベニシダの一型であろうと述べられている<sup>2)</sup>。

トウゴクシダその物に付けた学名には *Dryopteris nipponensis* KOIDZ. 及びその変種として、var. *dilatata* KOIDZ. 及び var. *ambigens* KOIDZ. (オオトウゴクシダ。前記ヒロハベニシダとは無関係) の名がある。後の2変種とされたものはトウゴクシダの変異の内のもので区別する程のものでなくて、すべてトウゴクシダである。ゆえにトウゴクシダをベニシダの変種に置くときには命名規約によつて var. *dilatata* KOIDZ. を起用して新しく組合せを作ることになつた。

(2) **オオヒメワラビ** 本種は独立種とする学者と、これに近似するオオヒメワラビモドキまたはミドリワラビの変種または品種とする学者とがある。筆者はこれについて野外でも標本でも注意して調べて見たが、外見が中間のように見える個体でも他の基本的の区別点ではつきり区別が出来るので、オオヒメワラビは独立種であると信ずるに至つた。志村氏 (1960) も採集と飼育22巻6号で詳記されたので参考とする。

オオヒメワラビはオオヒメワラビモドキに比して、根茎が太くて短いこと、葉面が広いこと、中軸と葉柄に鱗片が残らないこと、ソーラスは幾分中肋よりの気味につくこと等で全く異なる。またミドリワラビに比して葉は彼の三角形で下方が最も広くて先が急に尖るので異なりて広楕円形の気味を呈し、小脈は2岐のものを有せず。特に孢子の突起物の形が全く異なるので全く別種である。

本種は葉軸の中心柱の相違によつて中軸の表面にある溝の縁は分岐点で中断されることがないので、*Athyrium* 属から分けて *Lunathyrium* 属とすることは、倉田先生の分類系に従つて、学名の新組合せを作ることにする。

(3) **チャボノコギリシダ** (志村新称)。ノコギリシダの新品種、外観では母種のノコギリシダと著しい相違を示し、別種の観があるが、唯一ヶ所に僅少の個体が採集されたもので、ノコギリシダと他の性質は一致しその変形なることは疑がない。発見者の志村氏は6年も栽培を続けているが、根茎で無性繁殖して全く性質が固定して、決して祖先返り

1) 原色羊歯植物図鑑, p. 102 (1959)    2) 同書, p. 103

をすることがないという。

ノコギリシダに比して葉は一般に小形で、最大のもので柄まで合して 55 cm にすぎない。葉身は細長くて先は長く伸びる、下部は狭くなるので最下数対の羽片は短縮している。羽片は先が丸くて基部は左右やや同形の截形を呈し、耳垂は殆んど不明である。歯牙は母種よりも粗で不規則に尖っている。

昭和34年10月19日静岡県静岡市の有度山塊の青沢の谷で、志村義雄氏と飯田全秀氏とによつて採集された珍品である。標本を提供下さつた志村氏に感謝する。